

千葉中華総会 2011 年 9 月理事会議事録

1. 時間: 2011 年 9 月 11 日(日) 14:30~16:00
2. 場所: 来来飯店
3. 出席: (敬称略着順不同) 浜岡会長、鈴木副会長、王子顧問、黄監事(記)、浜田副会長、銭理事、江徳理事、江徳様、中村理事、則安理事、葉理事、陳相談役。

4. 集会目的:

- (1) 9 月 17 日オークラホテルにて関東 6 県双十節国慶懇親会の件
- (2) 10 月 16 日千葉中華総会 100 周年双十国慶祝賀会の件

5. 会議内容:

(1) 浜岡会長: 会議開始宣言を行い例会報告した。

- ① 代表処より来年総統選挙主旨の公文書があり、会員に周知する。台湾日報も掲載する(銭)。
- ② 千葉中華総会の名刺が印刷し終え、各自当人に配り、確認するお願い。
- ③ 案内状及びご返事について:

ホテルグリーンタワー幕張より案内地図が届き、封筒も出来上がった。来客用 50 部を用意し名簿リストとチェックを行う。日華親善協会など団体には纏めて案内する方がよい(王子顧問、江徳理事)。議員達、ちば銀専務などへもダブルの無いように(浜田副会長)、会員には葉書返信にする。住所のある華僑に高元様、呉先生へも出すように(王子顧問)、千葉県森田知事や千葉市熊谷市長臼井議員を招く。市長へ表敬訪問につき目的、活動を明記し申込む予定(浜岡会長)。

- ④ 9 月 17 日 17:30 開催する関東地区建国百周年双十国慶懇親会の案内状が届いた。千葉中華総会分の 20 席につき、浜岡会長、鈴木副会長、浜田副会長、中村理事、則安理事各自 2 席分を予定し、葉理事 1 席、江徳理事 1 席、黄監事 2 席に加えて参加する。総会は半額補助が決まっており、招待席数を再度確認を行うにお願いする。去年建国百周年行事で 10 万円を支出したが、今年も寄付したが(銭理事)、支出者は毛利会長任期中(則安理事)だった。建国百周年活動は去年から既に始まり、元日の国旗掲揚式を始め時期や主催団体により多数寄付を要請があった。今年 3,4 月の寄付補助とは違う(鈴木副会長)。使途確認は毛利総会長にする(浜岡会長)
- ⑤ 10 月 16 日千葉中華総会 100 周年双十国慶祝賀会につき、会場は三階のロイヤルの間に最大級広間を使用する予定。駐車場も確認済み(浜岡会長)。

i. 進行日程: 第一部 40 分間合唱団、10 分間休憩、6 時より第二部開始、10 分間暁媛ピアノ演奏、百周年国慶節祝賀会開始宣言—浜岡会長、大使挨拶、来賓紹介・挨拶、音頭取り、抽選会、閉会宣言、大合唱の順で予定する。大合唱曲が千葉

総会を大家族のように因んで甜蜜家庭、日本名ハニユーの宿を提案する(浜岡会長)。東日本大震災元気付けに上を向いて歩こうも良い(則安理事)。日程表確定して50枚作成予定。

- ii. 第一部合唱団の詳細について、当日ピアノの用意が確認済み、ステージマイク x4本、30人乗り送迎バスは当日八千代からホテル直行、当日3時よりリハーサル、下見が今週中予定する、台日国歌特訓中、暁媛様の日台曲も練習中(江徳様)。
- iii. 日程表をFAX連絡にて会員に周知する(浜岡会長)。陳相談役より連絡がよく届いていない(則安理事)に対し、届くように配慮する(浜岡会長・浜田副会長)。
- iv. 日程表の担当者を確認する。音頭取りを日華協会メンバーにお願いする予定(浜岡会長)。
- v. 抽選会に百周年百万円寄付の目標に向け、来来飯店の協力でランプ義売を行なっているものの開きが未だ大きく、今回の大震災へ日本は故郷のような存在である気持ちを伝えて会費から寄付金10万円を千葉県市政府へ渡して如何か(則安理事)、同席異議なしで会長裁量出来た(浜岡会長)。黙祷を捧げる方が良い(王子顧問)、最初の開会宣言で司会者誘導で1分間黙祷を捧げる(浜岡会長)。
- vi. 祝賀会席の間、大使館に訪問遅れた件で、千葉総会全員が大使と僑務組と挨拶する。
- vii. 道具類用品の用意:お花の贈呈:大使、先生、暁媛計3束予定、国旗、胸花、団体撮影カメラ、録画ビデオ。
- viii. 祝賀会会費は大人5千円、小人3千円と予定する(浜田副会長)。

(2) 決議:

- ① 10月16日(日)祝賀会当日15:00にホテルグリーンタワー幕張のロビーで集合(浜岡会長)。
- ② 祝賀会会費は大人5千円、小人3千円と予定する(浜田副会長)。

(3) その他の:ホームページあるが、現在更新されていないため接続不能。検討する方がよい(銭理事)。

- ① 総会の歴史、活動記録まとめ、イベント過程報道、会報誌の編集は可能(銭理事)。
- ② 費用予算は如何か(江徳様)。ホームページ構築は初年度6万円、2年目以降年3万円。一イベント毎3千円。一般的に持続な更新が必要で、即時情報維持にネック(銭理事)。
- ③ 会報誌の「友誼」は頼先生を始め諸先輩達に作られた来た資産で、後世に残して、是非、継続し復活させたいもの。